

「あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン」(案)に対するパブリックコメント実施結果

1. 実施期間

令和5年1月4日(水)から2月6日(月)

2. 意見応募状況

意見応募者数: 11人

意見件数: 56件

3. 意見の要旨とこれに対する市の考え方

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
1	2	「プランの対象エリア」	<p>「あるかぼーと・唐戸エリア」として位置づけられている、唐戸市場から岬之町までの約20haの圏域が対象エリアとされているため、その地区に限定されたプランとなっておりますが、隣接の火の山や駅周辺、さらには後背地(南部町、観音崎町、入江町、西入江町、長崎中央町、豊前田町、笹山町等)等、周辺地域との関連についても配慮がなされるといいのではと考えました。</p> <p>ここでは特に後背地との関連について若干意見を述べさせていただきます。当該地域は、マスタープランでも触れられている下関の「歴史」の舞台の中心にほかならず、なかでも当地の観音崎町にはかつて、功山寺仏殿とならぶ「唐様(禅宗様)」の「永福寺観音堂」が、市内3つの国宝の一つとして異彩を放っていました(太平洋戦争時に焼失)。「観音崎コース」と高杉晋作像を擁する日和山公園を中心とする「日和山コース」とを含む「港が見える丘の径」がかつて整備されましたが、残念ながら現在は雑草に埋もれそうになっています。大歳神社や光明寺といった歴史上重要な古刹はもちろんのこと、ルート上には紅葉稲荷神社や西国八十八箇所霊場もあり、景観の面でも観光客にぜひ足を運んでほしいところです。</p> <p>この点、脳科学者の茂木健一郎さんが来関時、まさにこの「港が見える丘の径」を下関の誇るべき名所として絶賛されています(#旅ランin下関。下関港国際ターミナルと港の見える丘の径とYouTube)。この径を踏破するのはなかなか大変ですが、茂木さんもおっしゃる通り、車の多い国道沿い(「俗世」と日和山公園の静謐な空間(「天上来」とが同一エリアに混在する様は、なかなか他には見当たらないのではないのでしょうか。</p> <p>ぜひ、この「港が見える丘の径」への接続の便宜をはかること(「リゾナーレ下関」からですと、まずは「観音崎ルート」が最短です)ならびに同「径」本体の再整備をご検討いただけませんか。</p>	<p>下関駅や山側市街地、火の山までを含めたより広範囲のビジョンを示すものとして、2022年3月に「下関海峡エリアビジョン」を策定しております。エリアビジョンでは、各エリアをつなげ、回遊性を向上させ、賑わいを波及させることが重要であり、その取組として、情報の連携、ウォーカブルの推進、新モビリティを検討することとしております。</p> <p>その一環として、あるかぼーと・唐戸エリアに限定しておりますが、海峡プロムナードと市街地をたてみちでシームレスにつなぎ、回遊性向上施策を検討することとしております。</p>
2	2	「唐戸市場から～」	<p>「姉妹都市広場から～」とした方が良いのでは理由…今後更なる唐戸市場の活性化には、将来、同市場東側エリアの利活用が不可欠と考えるため</p> <p>また、唐戸市場がにぎわっている今だからこそ、市場周りで将来を見据えた魅力的な新しいコンテンツを積極的に追加して欲しい</p>	<p>唐戸市場東側エリアについても、一体のものとして認識しておりますので、ご指摘のとおり誤解が生じないよう適切な文言に修正いたします。</p> <p>修正前)「唐戸市場から～」</p> <p>修正後)「唐戸市場周辺から～」</p>
3	8	日本を代表するウォーターフロントシティ	<p>あまりにも高い目標を掲げている。市の予算や立地条件を考慮するとこれは無理。「目指すべき方向性」であっても身の丈に応じたものとすべき。</p>	<p>関門海峡という世界的にも稀有な景観と、そこに面した広大な開発余地というポテンシャルを踏まえると、「日本を代表するウォーターフロントシティ」とする目指すべき方向性は妥当であるものと認識しております。</p>

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
4	9 55	一日に1000隻近くの船が行き交う稀有な景観を有している。 関門海峡を船オタの聖地として 船を眺める以外の楽しみ方がありません。	海峡のにぎわい創出に最も有効だと思います。 ドイツのハンブルグ港に行った人の話では、ハンブルグでは通過する船の国籍を当てるゲームをしながら酒を飲んで盛り上がっているそうです。 関門海峡の多国籍船を眺めながら、欧米人のように昼間からビール、ワインを楽しめるガーデンがあれば、宿泊滞在客が増えると思います。 夜は下関駅～唐戸周辺でふくあんこう鯨を楽しむ動線があれば更に宿泊者が増えます。 ただ、「オタク」という表現では、高所得者層や中高年層が距離をとるリスクがあります。	関門海峡の景観と沿岸の下関と門司港が一体の生活圏を形成していることが、関門地域の最大の特徴であり、魅力であると認識しております。その魅力を最大限活かせるようなプロモーションを検討する上で、今後の参考とさせていただきます。 「オタク」については、ご指摘を踏まえ、文言を見直しました。
5	9	下関市の新たな基幹産業として観光業を育成	下関市の新たな基幹産業として観光業を育成 観光業を基幹産業とすべきならこれまで使ってきた「素材」だけでは実現困難。新たな価値の創造が必要であり、具体的な集客施設が必要。	観光地としての現状の主な課題は、滞在時間の短さと観光消費額の低さであると認識しております。 それらの課題を解決し、観光業を育成するためには、各施設の整備に加え、各施設単体の魅力だけではなく、エリア全体として、関門海峡を眺めるだけでなく、多様な手段で遊びこなし、場所や時間によって移り変わる魅力を創出し、回遊を促すことが重要であると考えております。
6	9	歴史的特徴	巖流島 下関の歴史の中で壇之浦の戦いはインパクトがあるが平氏よりで、広島に負けてしまう印象なので、宮本武蔵を推してゆくべきに思う。漫画バカボンも追い風になるので、資料館など巖流島に設置して、足が運べる島にするに興味を持つ方が増えるかなと思います。	ご指摘のとおり、「巖流島の決闘」のような歴史的特徴についても、観光地としての重要なポテンシャルの一つであると認識しております。そういったポテンシャルを活かし、質の高いコンテンツを生み出せるよう今後の参考とさせていただきます。
7	10～11	ウォーターフロント事例	事例として大都市にあるエリアや有数な港湾都市を掲げても地方都市の参考になるか疑問。地方の中規模都市の事例を紹介すべき。	国内外の魅力的なウォーターフロントの事例を分析し、成功事例そのものを参考とするのではなく、成功事例の中から共通する要素を抽出し、参考にしております。
8	12	“港らしさを感じる” ウォーターフロント	長州出島の解放 大型タンカー、客船などの集まる港であり、船を使ったアクティビティなどがあると家族で楽しめる。観光(遊覧船)で唐戸？>巖流島>出島>唐戸のようなイメージで、出島にも多様な店舗があると良いのでは	長州出島については、本プランの対象エリア外ではありますが、あるかぼーと・唐戸エリアについては、船のアクティビティも含め、様々な体験型コンテンツを提供することが滞在時間の延長、回遊性の向上につながるものと認識しております。また、それと同時に賑わいを周辺エリアに波及させる仕掛けも重要であると考えております。
9	12	“港らしさを感じる” ウォーターフロント	水族館について 江の島水族館や鴨川シーワールド、海遊館、シーパラなど、集客率の高いと思われる水族館を参考にしてリピートしたくなるアクティビティ強化が必要に思う。具体案が出ないが、遊園地と抱き合わせるなど、地元民としてもう一度行きたいという声をあまり聞かない。外観も素晴らしいと思うが、もったいない。	海響館は、今後も施設の長寿命化や新たな魅力づくりを図り、入館者の増加に向けて取り組むこととしております。 また、各施設単体の魅力だけではなく、エリア全体として、魅力を創出し、回遊を促すことが重要です。周辺との連携も含め、研究・検討してまいります。
10			「海響館」は本当に魅力を出し切っているのか。海響館のパスポートを保有している市民の割合が少ないのであれば魅力化はまだではないか。さらなる集客に向け検討が必要ではないか。	

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
11	19	門司港と連携した取組	下関に観光客を呼ぶには門司港や小倉と一体となった観光客誘致が不可欠。これまでとは異なる通年での連携したイベント等の立案が必要。	関門海峡の景観と両岸の下関と門司港が一体の生活圈を形成していることが、関門地域の最大の特徴であり、魅力であると認識しております。その魅力を最大限活かせるようなイベントを含む様々な面において、関門で連携する必要があると認識しております。
12	19	関門海峡を挟んだ門司港と連携した取組により	是非とも対岸の門司港とも連携した観光振興施策を展開し、関門エリア全体を盛り上げて欲しい	関門海峡の景観と両岸の下関と門司港が一体の生活圈を形成していることが、関門地域の最大の特徴であり、魅力であると認識しており、関門連携により、その魅力を最大限活かせるような施策を検討してまいります。
13	19	(2)開発コンセプト	昨今の脱炭素化・カーボンニュートラル・SDGs等の観点より、環境面への配慮やPRも開発コンセプトに加えるべきと考えます。 具体的には、建物内外装の県産木材使用・再生可能エネルギー活用(創エネ)・ZEB(建物で消費するエネルギー収支をゼロにすることを目指した建物)などです。 また、法規制緩和と云う国の後押しもあり、木造建築の高層化が現実化しているので、検討して頂きたいと考えます。	開発コンセプトにつきましては、下関を中心に関門が日本を代表するウォータフロントシティとして認知されるための要素であると考えております。 他方で、環境面への配慮は、本プランの推進にあたり、念頭に置くべき重要な要素ではあるため、各事業を推進していく上で、検討・研究を進めてまいります。
14	21	ランキング目標20位以内	市町村魅力度ランキングは民間調査機関による集計であり、調査方法や調査対象が適切なのか疑問もあることから、この結果に縛られる必要はない。	観光地としての目標設定だけではなく、市民からみた居住地としても魅力的な場所となっていることを示す指標が必要であり、継続的かつ同水準ではかることができる全国的な指標として市町村魅力度ランキングを採用しております。
15	24	調達した魚介類をその場で調理してくれるサービス	釜山のチャガルチ市場およびその周辺の露店鮮魚店のシステムを模倣し、自分が生簀から選んだ魚を料理して食べられる店が多く集まれば大変にぎわうと思えます。このスタイルは台湾・香港でも定番で、多くの日本人が楽しんでいます。	ご指摘のとおり、国内外には港湾の景観や産業・文化を観光資源として活かし、観光地として成功している事例が多数存在しております。 それらの事例を参考にしながら、下関に適した戦略を研究してまいります。
16	24	角打ち	おしゃれな街にしたいのなら「角打ち」は逆に街の景観を損なうことになるのではないかと。	エリアの開発コンセプトとして「港まちらしさ」を戦略の一つとして掲げており、本ゾーンにおいては、地場の味と水産業が思いっきり楽しめる食文化エリアを目指すこととしておりますので、導入機能につきましては、今後、いただいたご意見を参考に検討を行うことといたします。
17	24	場外レストラン	海沿いは風が強い日が多いので「場外」とするには不向き。状況により屋外で利用できる飲食スペースを一部に設置する程度で良いのではないかと。	
18	24	唐戸市場エリアの活性化	市場で買ったものを食べることができる雨風をしのげる飲食エリアが多くあった方が良いでしょう。	
19	24 25	導入を検討すべき機能	カモンワープのレストランは多くが観光客相手の店であり値段も割高なため、近隣の住民や勤務者が気軽に昼食を取れるような場所がない。観光客以外でも平日の昼間に足を運べる店舗を増やすべき。	

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
20	24	水産漁業レクリエーションゾーン	唐戸市場 低コストの海産物の網焼き食べ放題プランなどがほしい。素材は十分に揃っているわけで、その場で安く食べられるイメージが少ないので、ふくなどを前面に出したメニューと旅行代理店などを通じた告知が必要に思う。	エリアの開発コンセプトとして「港まちらしさ」を戦略の一つとして掲げており、本ゾーンにおいては、地場の味と水産業が思いっきり楽しめる食文化エリアを目指すこととしており、食物販を含む導入機能につきましては、今後、いただいたご意見を参考に検討を行うことといたします。
21	24	水産漁業レクリエーションゾーン	めんたい工場やかまぼこ工場など、見学・体験できる工場があると、さらに楽しめると思います。ふくや瓦そばなどにちなんだ工場(資源再利用などSDGsをからめた工場)でふなっしー、くまもの下関のゆるキャラなどいれば、行ってみたいと感じるかなと思います。	エリアの開発コンセプトとして「港まちらしさ」を戦略の一つとして掲げており、本ゾーンにおいては、地場の味と水産業が思いっきり楽しめる食文化エリアを目指すこととしており、体験型の食コンテンツを含む導入機能につきましては、今後、いただいたご意見を参考に検討を行うことといたします。
22	25	関門旅行を彩るゲートウェイ機能	ターミナルの改修も良いが、それ以前に渡船が古めかしく乗りたいと思えるような魅力がない。まずは船をどうにかする必要があるのではないかと。	連絡船は、回遊性を向上させる上で欠かせないコンテンツであるので、本プランの推進にあたっては、民間事業者の協力を得ながら必要な検討を進めてまいります。
23			あるかぼーと・唐戸エリアの発展には唐戸商店街の再開発が欠かせない。今のような古びたシャッター商店街では観光客が訪れることはない。地域の発展には唐戸商店街の根本的な改革が必要。	唐戸商店街については非常に重要な位置づけであると認識しております。唐戸商店街の活性化については、官民で連携し、検討してまいります。
24	29 47	モビリティレーンの設置 ビールを飲みながらバイク	歩行者動線と二輪車の動線を区分しないと事故が発生します。飲酒した人、歩き始めたばかりの幼児、足をケガしている人、老人など、二輪車との衝突を避けられません。 代わりに、海峡に面したランニングコースや更衣室を整備して、関門トンネル人道と結べば、皇居の様にランナーの聖地になります。	あるかぼーと・唐戸エリアにおいては、自転車だけではなくパーソナルモビリティの導入を検討するものとしており、その実現にあたっては、モビリティレーンの設置等も含め、歩行者の安全性や施策の有効性の観点からも慎重に研究・検討する必要がありますと考えております。 海峡に面したランニングコースや更衣室の整備につきましては、海峡を楽しむコンテンツの一つとして今後の検討の参考にさせていただきます。
25	30	複合商業施設	レストランやお土産屋を含む複合商業施設を作るのであれば歓迎できるが、どうせ作るのであれば多くの市民も呼び込める大規模な商業施設(スーパーマーケットを含む)が望ましい。中途半端なものを作っても人は集まらない。また、「ハレの日に使いたくなる」との意味がわからない。	マリンパークゾーンを含む全エリアにおいて、観光客のみならず、市民も憩える場所である必要があると認識しております。 「ハレの日に使いたくなる」とは、「特別な日に過ごしたくなる非日常体験ができる」ということを意味しております。
26	30	商業と融合した憩いと賑わいのある港湾緑地	新しい商業施設の立地にあわせて、今の港湾緑地をもっと使いやすいものに変えて欲しい	芝生広場については、海との親和性も高く、イベントの実施など賑わいの拠点として機能するものと認識しております。 芝生や親水空間を有効的に配置し、港まちらしさを感じられ、周辺施設との相乗効果も発揮される広場となるよう官民で連携し、検討してまいります。
27	30	マリンパークゾーン	契約期間終了とはいえ、あるかぼーとエリアの目印となっている「観覧車」をなくするのはもったいないのではないかと。	「はい！からっと横丁」のあるA地区については、現在事業者を公募中であり、観覧車につきましては、各公募参加事業者のご提案によるものと認識しております。
28	30	マリンパークゾーン	現在の「はいからっと横丁」にある大観覧車については、下関市ならず、関門エリアの景観において昼夜を通し、ランドマークとしての存在価値が非常に高い。大観覧車の存続を強く望む。	
29	30	レジャー機能	観覧車(はいからっと横丁)だけは残し、夜景スポットとして下関のシンボルにしてほしい。	

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
30	31	イメージ図	木や芝生を含め緑の場所が多すぎる。この地域に来る人はそのようなものを望んでいるわけではないであろう。余計な空間を作らず施設を作るべき。緑は周りにいっぱいある。	回遊性を高めるために、移動そのものが楽しくなる仕掛けが必要であり、その一つとして回遊する人が立ち寄りたくなる緑と調和したコンテンツの配置等を検討することとしております。
31	32	まち側とつながる芝生広場	芝生広場をうみ側まで連続させてほしい。海峡を見ながら、老の山公園の芝生みたいな広場で、子供を思いっきり遊ばせたいです。	芝生広場については、海との親和性も高く、イベントの実施など賑わいの拠点として機能するものと認識しております。芝生や親水空間を有効的に配置し、港まちらしさが感じられるよう官民で連携し、周辺施設との相乗効果が発揮される広場となるよう検討してまいります。
32	36	イメージ図	継続的な集客が望めるとは思えない「温浴施設」は不要。	「温浴施設」は、観光客のみならず、市民にとっても価値あるコンテンツの例示として表記したものです。「はい！からっと横丁」のあるA地区については、現在事業者を公募中であり、各公募参加事業者のご提案によるものと認識しております。
33	39	連絡船船着場 SUP カヤック 水上アクティビティ	流されたレジャー客と連絡船とが衝突します。船舶は唐戸ゲートウェイハーバーゾーンに集積して、レジャーエリアと物理的に分けるべきです。	水上ロケーションを活かしたレジャープログラム及び回遊性向上のコンテンツの一つとしてアクティビティハーバーゾーンでの回遊船・連絡船の発着を検討するものとしております。ご指摘のとおり、その実現にあたっては、安全性や有効性を含め、慎重に研究・検討する必要があるものと認識しております。
34	40 42	脱炭素社会実現に向けたエネルギー問題 研究施設下関独自の成長産業	海響館に関門海峡の現在の潮流を表示する展示がありました。潮流での発電を体感できれば世界中から見学者が集まると思います。関門海峡のエネルギーは凄まじいものがあります。このエネルギーを電力に変換できれば、下関の成長産業や、日本のエネルギー問題を解決する糸口になるかもしれません。	クリエイティブポートゾーンにおいて、下関ならではの成長産業を育む学術研究機関の導入について検討するものとしております。他都市にとっては模倣が困難な差別化戦略の一例として、今後の検討の参考にさせていただきます。
35	40	「クリエイティブポートゾーン」	あるかぼーと・唐戸エリアのウォーターフロント構想は、とても合理的かつ魅力的です。そのなかでも私が特に注目したいのは「学術研究・文化創造ゾーン」としての岬之町です。岬之町はもともと、現在の埋め立て地ではなくいまも蜂谷ビル周辺の地形に名残を残す「岬」でした。岬は、哲学者も述べるとおり、単なる陸地の先端部に過ぎませんが(他の岬【新装版】みすず書房(msz.co.jp))、同時に、別の世界へと開かれる「最先端」でもあります。その意味でも、ここにクリエイティブゾーンを作るという構想は的を射ています。今回のプランにある程度影響があったのかどうか、定かではありませんが、以前、市港湾課のベテラン職員さんにお話を伺った際、岬之町について「ここはぜひ、民間活力によって『交流広場』『インキューベーション施設』としてほしい学生さんたちにもぜひアイデアを出してもらえれば」と仰っていました。これに賛同する者として、岬之町クリエイティブゾーン構想はまさに「渡りに船」です。私の捉え方では、「国際物流拠点」(駅からフェリー港・ゆめタワー近辺)と「観光拠点」(唐戸・あるかぼーと)、そして「歴史景観地区」(斜面地含む後背地)の結節点となるのがここ岬之町です。このたびのマスタープランは海岸線沿いの「横」のつながりを重視したものと言えませんが、「岬最先端」地である岬之町からやまぎん史料館近辺を経由して「港が見える丘の径・観音崎コース」をつなぐ「縦」のつながりにも注目していただきたいところです。	クリエイティブポートゾーンの整備方針は、「自由でクリエイティブな雰囲気あふれる学術研究創造エリア」としており、学術研究機関や文化創造拠点を設置することで、研究者やアーティスト等、多種多様な高度人材が行き交うクリエイティブなエリアを目指すこととしております。海峡プロムナードと市街地をたてみちでシームレスにつなぎ、回遊動線を形成するとともに、クリエイティブポートゾーンについても回遊ルートの一部であると認識しております。

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
36	40	岬之町には学術研究機関や文化創造拠点を設置する	このエリアに学術研究機関を呼ぶことの意味がわからない。そもそも希望する機関があるのか。あるにしても狭いエリアに中途半端な施設を作っても人は呼べない。文化創造拠点を設置するのならこのエリア全体を使うような大規模なものにすべき。中途半端な施設を作っても観光客は呼べない。	クリエイティブポートゾーンについては、市民や観光客が訪れる場所であることに加え、多種多様な高度人材が集まり、交流できるクリエイティブなエリアを目指すこととしております。三方海に囲まれた好立地な岬之町は、クリエイティブな人材や学術研究機関等の誘致に適しており、下関ならではの新しい産業を育成し、労働人口・定住人口の増加に寄与するものと考えております。
37	40	岬之町で育てる下関ならではの産業	なぜ岬之町を産業拠点にする必要があるのか。唐戸エリアやあるかぼーとエリアをこれまで以上の観光地とするのであれば、それに続く岬之町地区も観光エリアの続きとなるように工夫すべきであり、産業拠点として切り離す必要はない。	
38	40	アーバンスポーツやナイトクラブ等若者目線のレジャー	アーバンスポーツやナイトクラブ等はエリアの一体性を考慮すると必要ない。特にこの部分だけ「若者」を持ち出しても中途半端なものにしかならないのではないのか。	クリエイティブポートゾーンについては、市民や観光客が訪れる場所であることに加え、多種多様な高度人材が集まり、交流できるクリエイティブなエリアを目指すこととしております。若者に特化したものではなく、スポーツ、アート、研究等様々な人材の交流を促す環境が必要であると考えております。
39	40		岬之町エリアは学術関連施設ではなくて、大規模な駐車場にすべきだと思う。現在でも日、祝日の交通渋滞がひどいの、さらに集客を目指すのならそれ以上の駐車場が不可欠だと思う。岬之町から赤間神宮までのエリアに回遊シャトルバスを運行させてお客様の移動の利便性を計るべきだと思う。	あるかぼーと・唐戸エリアの周辺では、今後、来街者の増加が想定されることから、交通混雑の緩和及び回遊性向上のため、既存駐車場の有効利用及び駐車場の配置や規模等について、さらなる研究・検討が必要になるものと認識しております。
40	40	多種多様な高度人材が行き交うクリエイティブなエリアとします	今ある港湾の倉庫などをリノベーションして、若者が活躍できるプロジェクトにして欲しい また、岬之町ゾーンは、市民も参画できるプロジェクトを導入して欲しい	クリエイティブポートゾーンについては、市民や観光客が訪れる場所であることに加え、若者も含めた多種多様な高度人材が交流できるクリエイティブなエリアを目指すこととしております。既存の建物については、必要に応じてリノベーションによる利活用を検討してまいります。
41	43 48	中距離モビリティ (EVバス等)	唐戸市場と海の間を完全な歩行空間にしてほしい。 現在、寿司を食べる歩行者と観光車両が混在して本当に危険！！子供を連れて安心して寿司が食べられません。	唐戸市場周辺の車両や歩行者等の動線について、安全面も含め、さらなる研究・検討が必要になるものと認識しております。
42	43	第4章交通・動線計画	現在の入り組んだ道路では、地元民も気軽にアクセスしようと思わない。もっと開けた道路を作り、わかりやすい大型駐車場を整備してほしい。地元民や北九州市民が気軽に集まり、1日過ごせる空間でなければ、継続的な他県の集客は望めない。	あるかぼーと・唐戸エリアの周辺では、今後、来街者の増加が想定されることから、交通混雑の緩和及び回遊性向上のため、既存駐車場の有効利用及び駐車場の配置や規模等について、さらなる研究・検討が必要になるものと認識しております。
43	43		カーボンゼロを踏まえた交通ツールに積極的に取り組む趣旨も盛り込むことも検討してほしい。	カーボンゼロを含め、環境面への配慮については、本プランを進めていくにあたり、念頭に置くべき重要な要素ではあるため、各事業を推進していく上で、交通の検討に関しては、ご指摘を参考にしながら慎重に検討・研究を進めてまいります。
44	44 49	駐車場	現在、唐戸市場周辺の交通渋滞は凄まじく、観光意欲をなくします。観光需要を大きく取りこぼしています。平面駐車場では容量不足だと思います。	あるかぼーと・唐戸エリアの周辺では、今後、来街者の増加が想定されることから、交通混雑の緩和及び回遊性向上のため、既存駐車場の有効利用及び駐車場の配置や規模等について、さらなる研究・検討が必要になるものと認識しております。

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
45	48 55	鉄道オタクに関しては国内に150～200万人存在 移動すること自体の楽しみを最大化するために多様なモビリティによる移動体験を提供 関門海峡を、国内唯一の「船オタの聖地」と位置づけ、広域からコアなファンを集客しつつ、船に馴染みがない人にとっての船に興味をもつきっかけとなるコンテンツやアクティビティを提供	あるかぼーと地区には、かつて貨物専用の臨海鉄道が存在し、終点の唐戸にあった貨物駅は下関港駅とも呼ばれていました。横浜のみなとみらい地区にも廃線跡の自動車道「山下臨海線プロムナード」としてレールが敷かれており、観光客にも人気のスポットとなっています。 そこで、かつての臨海鉄道線をモチーフに海側のエリアにレールを敷設し、単に遊歩道にするだけではなく、レールマウンテンバイク自転車型トロッコを導入することで、乗車することを目的にした観光客の誘致はもちろん、市民の健康増進への施策の一つとして整備してはいかがでしょうか。 そうすることで、「船オタの聖地」はもちろん、全国、全世界に存在する「鉄オタの聖地」としても下関のポテンシャルを高めることにつながるのではないかと考えます。「移動手段」としての新交通システムの導入は比較的大規模な予算を必要としますが、このレールマウンテンバイクであれば比較的小規模の予算で整備できる上、安全性も高く安価な維持管理費で運用でき、グリーンベルトや海峡プロムナードに敷設すれば3つのゾーンをアクティブに回遊する楽しさも生み出せるのではないのでしょうか。	ご指摘のとおり、下関には古くから栄えた歴史的・地理的特徴を有する港まちであり、その港まちらしさにフォーカスし、「リアルな港まち」を体験できる仕掛けを用意することで魅力的な目的地となると考えております。いただいたアイデアは、今後本プランを推進していく上で参考とさせていただきます。
46	49	パーソナルモビリティ	電動スクーターやキックボード等の導入は歩行者にとって危険なのでやめた方がよい。	海峡の魅力を引き出すコンテンツ及び回遊性の向上の施策の一つとしてパーソナルモビリティの導入を検討するものとしており、その実現にあたっては、モビリティレーンの設置も含め、安全性や有効性の観点からも慎重に研究・検討する必要がありますと考えております。
47	54	関門を一体の観光地としてプロモーション	観光事業に関して北九州市との行政間の連携をもっと図るべきではないか。	ご指摘のとおり、本プランを推進していく上で、行政に限らず、民間も含めた関門での連携は不可欠であると認識しております。
48	54		陸域観光(バス)と関門周遊船観光を一体としたメニューも導入し、下関市宿泊の機会を増やしたい。	観光地としての現状の課題として、滞在時間の短さや観光消費額の低さがあると認識しており、その課題を克服する一つの手段として、宿泊客数の増加は重要であると考えております。 いただいたアイデアは、官民で連携して取り組むための今後の参考とさせていただきます。
49	54		周遊航路には「巖流島」「長州出島」を活用すべきと考える。	本プランではあるかぼーと・唐戸が対象エリアではありますが、このエリアについては、船のアクティビティも含め、様々な体験型コンテンツを提供することが滞在時間の延長、回遊性の向上につながるものと認識しております。また、それと同時に賑わいを周辺エリアに波及させる仕掛けも重要であると考えております。
50	57	Step1ビジョン策定 Step2事業化 Step3運営・マネジメント	当該事業及びその周辺エリアにおける観光客や施設数の増加に伴い、その賑わいを下支えする行政インフラ(道路・上下水道・通信網等)のスピーディな整備・効率化が必要になってくると考えます。 また、ランニングコスト低減を見据えた長期的な観点で維持管理・運営業務をマネジメントする事が重要になります。 具体的には、建物単体毎でメンテナンスをするのではなく、複数施設を面的に一元的に管理する事を推奨します。その際、更なる業務効率化やコスト低減のため、インフラも合わせれば、より大きな効果があり、安定した事業継続に貢献できると考えます。効果的な手法として、コンセッション等の官民連携PPP/PFIがあると考えます。民間の創意工夫、ノウハウ、資金を有効活用することで、より魅力あるまちづくりが可能になると考えます。	本プランの推進にあたっては、官民で連携することが重要であると認識しており、官民の分担のあり方についても今後検討いたします。

No.	ページ番号	記載内容	意見内容	意見に対する市の考え方
51	58		推進会議には公募委員制度の導入も検討してほしい。	本プランの推進にあたり、広く市民のご意見を伺うことが必要であると考えており、そうした機会を設けるよう努めてまいります。
52	全体	サイン モビリティ インキュベーション レジデンス モビリティステーション プロムナード	カタカナ言葉の意味を知らないで、このプランが訴えたい内容がはっきり伝わってきません。 どこかの外国語をカタカナ表記したものと思われるが、中学生レベルの一般市民が読んで理解できる日本語を併記してください。	ご指摘のとおり、わかりにくい用語につきましては、注釈に意味を追記いたしません。
53	全体	全体構想について	私がかねてより、「下関・関門地区はウォーターフロント埋立地中心と hinterland 旧海岸線を中心とする後背地との調和のとれた開発が決め手となる」と考えております。 下関・関門地区の歴史はかつて島であった亀山八幡宮周辺を江戸時代初頭に埋め立てて以来の「ウォーターフロント」開発の歴史であったと同時に、この地の歴史・文化の在り処はまさにこの「旧海岸線」だというのが、私の考えです。 後背地の歴史・自然資源と、同地の住民のみなさんの知恵を、民間活力によって最大限引き出せるような開発計画となりますことを祈っております。 ※個人が特定されるおそれのある記載がありましたので、表現を一部修正しました。	山側市街地の歴史・自然資源を含め、下関・関門地区の魅力を最大限引き出せるよう、ワークショップ等を通じて市民のご意見を伺いながら、官民で連携し、本プランを推進してまいります。
54	全体		観光都市を目指すのであれば、観光客を呼べる「新しい何か」を作るべき。観光客が楽しめる施設が必要(ホテルではない)。「唐戸市場」と「海響館」だけではこのエリアにこれまで以上の観光客は望めない。	観光地としての現状の主な課題は、滞在時間の短さと観光消費額の低さであると認識しております。 それらの課題を解決するためには、各施設の整備に加え、各施設単体の魅力だけでなく、エリア全体として、関門海峡を眺めるだけでなく、多様な手段で遊びこなし、場所や時間によって移り変わる魅力を創出し、回遊を促すことが重要であると考えております。
55	全体		星野リゾートの提案には乗っかりすぎず、あくまでも参考にとどめて市民にとって有益となる開発案を担当部署で検討していただきたい。	本プランは下関市として策定したものであり、下関にとって最適な開発となるよう官民連携により検討して進めてまいります。
56	全体		プラン案が発表されたことは、素晴らしい一歩であると思います。全てが可能とは思えませんが、下関市外からも市内からも集える場所になって欲しいと思います。リゾナーレが出来ることによってメリットもデメリットも有り得ると思います。大きなものを作るだけでなく、変幻自在なプランで状況に応じられると良いなと思います。	本プランで位置づけられた事業の中には長期間要するものもあると考えられるため、事業を担う主体やエリアマネジメント主体との密接な連携の下、時代の変化等必要に応じて段階的に更新しながら実現化を目指してまいります。